

第5号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)

まえばしたまむら あさくら (主)前橋玉村線(朝倉工区) あさくらまち しもさどりまち 前橋市朝倉町～下佐鳥町

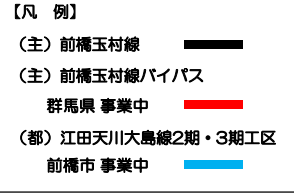
着手年度
評価理由

平成27年度
事業費の増額

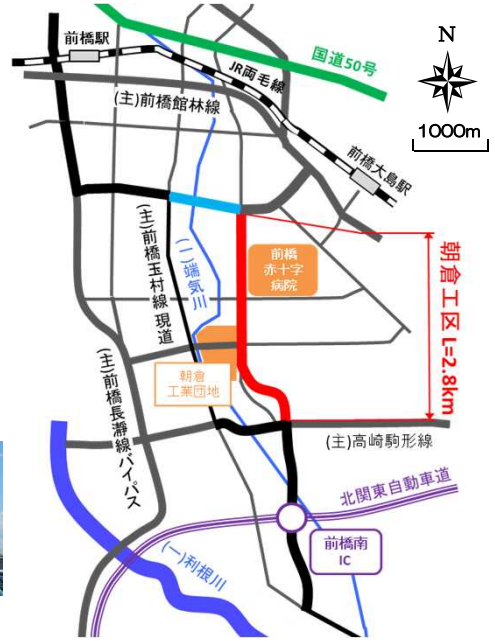
1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ 政策1:災害レジリエンスNo.1の実現
施策3:防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- 本路線は、前橋市街地から北関東自動車道前橋南ICを經由し、玉村町に至る幹線道路である。
- 本事業区間の沿道には、国の「首都直下地震における具体的な応急対策活動に関する計画」において、全国の病院で初めて航空搬送拠点に選定された前橋赤十字病院や、物流等の拠点となる朝倉工業団地があり、周辺道路網と一体となった広域的なアクセス性の向上が求められているが、現道は朝夕をピークに交通渋滞が発生している状況である。
- このため、これら防災・物流拠点と北関東自動車道前橋南ICや前橋市街地などを結ぶバイパスを整備し、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築を図るものである。



前橋赤十字病院
(平成30年度移転開院)



事業場所	まえばし あさくらまち まえばし しもさどりまち 前橋市朝倉町～前橋市下佐鳥町	
区分	事業採択時(H26)	今回
全体事業費	4,200百万円	5,200百万円
全体事業費増減の理由	—	・調整池の追加 ・埋蔵文化財調査面積の増加 ・資材価格や労務単価の高騰への対応
事業期間	H27～R6	H27～R10
事業内容	道路延長 2,800m 道路幅員 25.0m	道路延長 2,800m 道路幅員 25.0m

2. 進捗状況

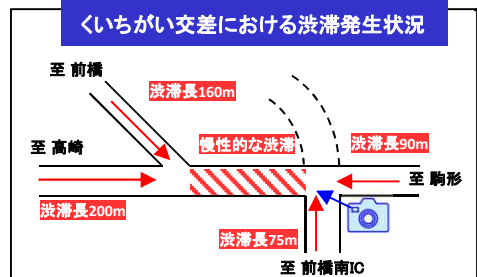
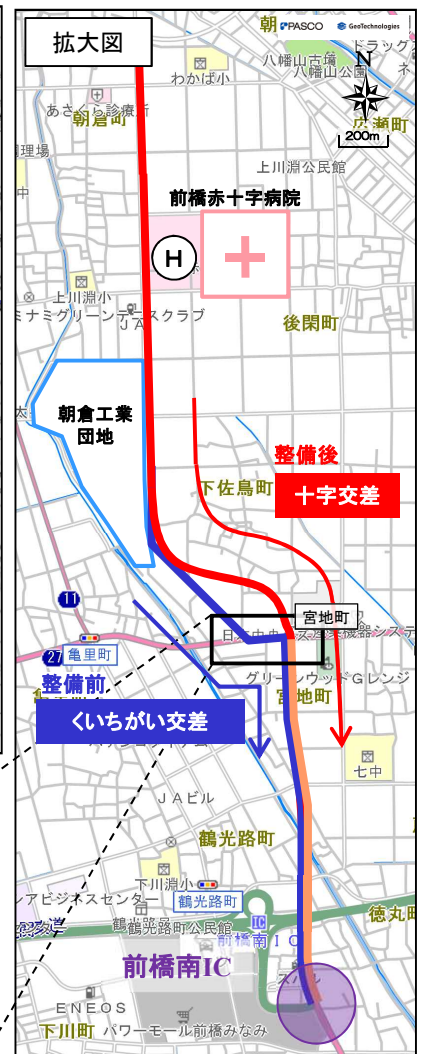
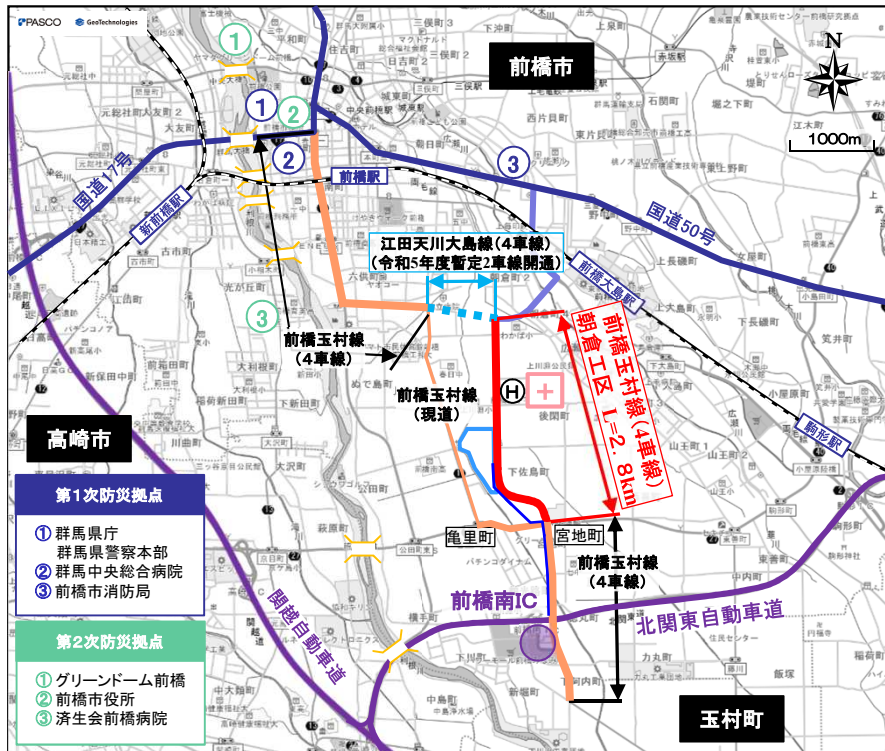
事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	前年度までの進捗状況 (進捗率)
H27	事業着手 地元説明会 測量調査・設計	5,200百万円	2,496百万円 (48.0%)
H28	用地買収着手	51,400m ²	32,668m ² (63.6%)
H29	工事着手		
H30	暫定3車線供用	2,800m	0m (0.0%)

4. どのような事業効果が見込めるか？

- 本事業区間の沿道に移転開院した前橋赤十字病院は、救急医療や県内外の災害医療を担う拠点病院であり、高速道路ICと結ばれる効果は非常に大きい。さらに、沿道では朝倉工業団地が拡張整備されており、物流の面からも整備効果は高い。本事業区間の完成により、北関東自動車道前橋南ICを利用して、より広域的に防災・物流拠点相互を結ぶ道路ネットワークが完成し、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築を図ることが出来る。
- 本事業区間の北側では（都）江田天川大島線（前橋市整備中）が令和5年度に暫定2車線で開通する予定であり、この開通により一体の道路ネットワークとなる。これによって、現道の交通渋滞が緩和するほか、宮地町交差点のくいちがい交差が解消し、前橋市街地と高速道路ICのアクセス性が向上し、都市間の連携強化、物流の効率化や緊急輸送道路の機能確保などの効果も見込まれる。



くいちがい区間の慢性的な渋滞状況
(宮地町交差点)

費用便益分析

	事業全体		残事業	備考
	前回評価時	今回再評価時	今回再評価時	
費用合計 (C)	3,321,000千円	5,034,000千円	1,994,000千円	・工事費 ・維持管理費
便益合計 (B)	20,439,000千円	35,576,000千円	35,576,000千円	・走行時間の短縮 ・走行経費の削減
費用対効果分析 (B/C)	6.15	7.07	17.84	

5. 事業手法やコストは妥当か？

【事業採択時の計画(事業費)を変更する理由】

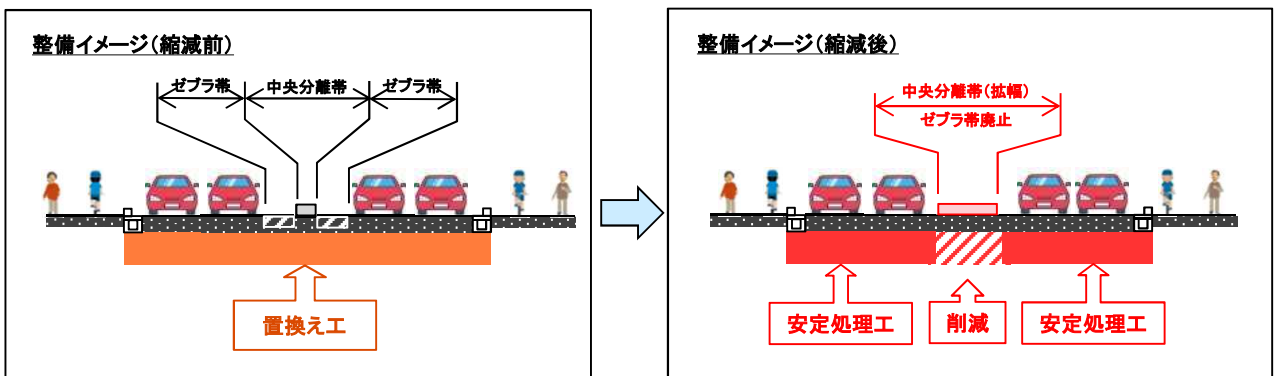
- ・試掘調査の結果、埋蔵文化財包蔵地が追加指定され、調査面積および文化財発掘調査費が増加した。
- ・本地域は、もともと道路排水と農業用水路を一括して処理していたため、本事業計画時は、同様に整備後の道路排水を農業用水路にて流末処理する計画としていたが、地権者等から農業用水路の溢水を懸念され、用水管理者と協議した結果、道路排水を近隣の一級河川端気川へ処理する計画に変更した。この変更に伴う河川管理者協議の結果、一部の排水流量については調整池による貯留を行う計画としたため、調整池3基および排水管を追加した。
- ・生コンクリート単価が平成27年から令和5年で1.4倍になるなど、近年の資機材・労務単価の高騰の影響を強く受け、工事費が増額となる。

【今回の変更計画の妥当性】

- ・調整池の池底高は、放水先にて一級河川端気川の計画高を超える高さを吐口としており、ポンプを利用せず自然流下によって処理する経済的な方法を採用している。
- ・調整池3基のうち1基について市道の残地を利用しており、用地買収面積が最小となる計画としている。

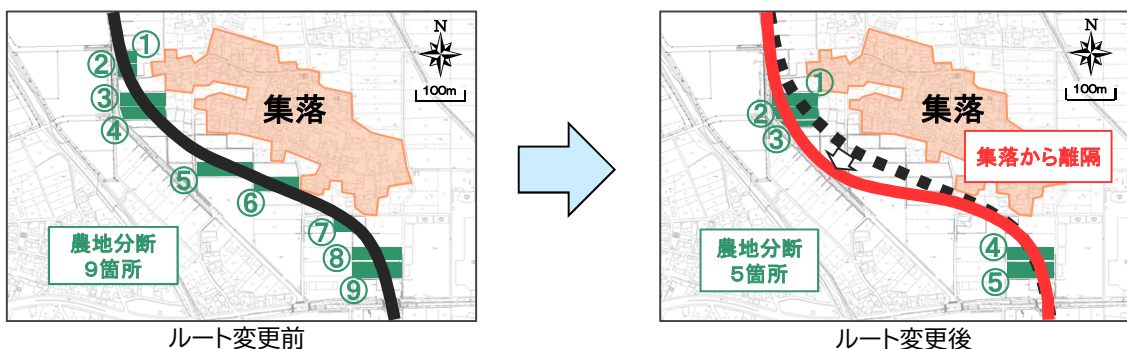
【事業費の縮減に向けた取り組み】

- ・路床改良工法の見直しを行い、砕石による置換え工から石灰安定処理工に変更することで、残土搬出にかかる費用を削減した。
- ・ゼブラ帯を廃止し、中央分離帯を広げることで、路床の安定処理工を削減した。



6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- ・4車線化整備によって、大型車両等の交通量の増加が見込まれることから、ルート決定にあたり、既存集落の生活環境に配慮し、騒音や振動による影響の軽減を図るため、道路位置を既存集落から離れた位置に見直す変更を行った。さらに、この変更により、道路によって2つに分断される農地を減らすことができ、営農への影響も抑えている。



7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

- 平成28年度から用地買収に着手したが、地権者が多く、用地の取得に長期間を要している。また用地交渉が難航している地権者が複数おり、これらの解決に約3年を要する。
- 埋蔵文化財包蔵地の追加指定により、発掘調査箇所が増加したため、約1年の調査期間を要する。
- 以上の影響により工程が遅延しているため、事業完了は令和6年度から令和10年度となる見込みである。
- 用地取得が完了した区間の改良工事を先行し、部分供用を図るなど、早期事業効果の発現に努めている。

8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- 本事業区間の沿道には、前橋赤十字病院が移転開院しているほか、朝倉工業団地が整備され、これら防災・物流拠点と前橋市街地や北関東自動車道前橋南ICとのアクセス性の向上が求められているが、前橋玉村線の現道2車線区間や高崎駒形線との重複区間(くいちがい交差部)において、朝夕をピークに慢性的な交通渋滞が発生している状況である。
- 本事業区間の整備により、現道の交通渋滞が緩和するほか、くいちがい交差部が解消することで、前橋赤十字病院など防災・物流拠点間のアクセスが向上するほか、北関東自動車道前橋南ICを利用することでより広域的な拠点間を結ぶ道路ネットワークが完成することとなり、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築を図ることが出来る。
- さらに、前橋赤十字病院が、令和5年度に首都直下地震に対応する国の計画において、全国の病院で初めて航空搬送拠点に選定されたことにより、県内外の大規模災害発生時に救急医療活動を行う同病院が果たす役割は益々大きくなり、本事業に対する期待は高まっている。
- 用地交渉の難航等により事業が長期化しているが、前橋市が整備を進めている(都)江田天川大島線と協調し、一部先行して部分供用を図るなど、早期事業効果の発現に努めている。
- 以上のことから、本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
前橋市	本路線は、前橋市街地から玉村町を結ぶ幹線道路であり、群馬県央を南北に結ぶ重要な幹線道路である。前橋赤十字病院を中心とした災害時のアクセス強化や、沿線の産業団地・商業施設の人流物流環境が飛躍的に向上することが見込まれるため、早期の整備をお願いしたい。